



戦後六十年

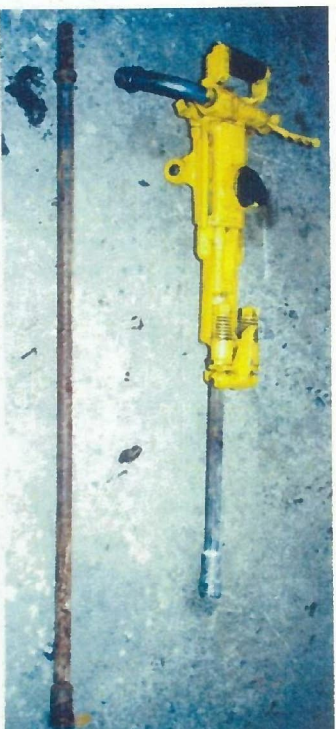
[illegible]

コーチながの子
 ども平和新聞アロ
 ジュウクンは、県
 内の小中学生たち
 が松代大本営地下
 壕一長野市を見
 学の知ったこと、
 感じたことを新聞
 にまとめ、戦争や
 平和について考え
 ました。



松代大本堂の
工事について

松代大本営の工
 事には、削岩機と
 いう道具が使われ
 ていた。
 削岩機は、穴を
 あけるために使わ
 れていた。構造は、
 まず本体があり、
 その先にロッドが
 あり、一、五メー
 トロほどの長さの
 ロッドの長さには
 私の身長と同じぐ
 らいの長さになる。
 そして、その先
 にあるピッチで穴
 をほつて、ダイナ
 マイトを詰めて爆



破していった。
でまた、落盤事故
で死亡する人も多
かつた。
削岩機やダイナ
マイトを駆使して
いたと考えられて
おり、硬い岩盤の
ところもあり、一
日にたつた数メー
ートルしか進まな
つたほど大変な工
事だった。

ひみつの
工事計画

松代に大本營を造つた主な理由は、東京からはな
れたていて山に囲ま
れた。二つ目は、地
質ががたいので空
襲にたえられる地
下ごうだから。
昔は近くに長野
飛行場があつて、

工事に都合が良かつ
たことも
しれないが、三つ
目の理由は、信州
を、神州に、つか
して、いたことだ
し、様になが、こ
神様にねがひをこ
めて秘密に地下に
うを造つたので、
造つて、いる人た
も知らなかつた。

設計圖.

もやされた

戦後、日本は、
アメリカなどの連
合国軍にせりよ
うされることにな
った。日本のえら
い人達は戦争の責
任を取らないとい

けなかつた。
しかし、えらい
人達は、戦争の責
任を取りたくなか
つたため、せうけ
り、図や戦争の証
になる物は全ても
やせと指示したの
だ。松代大本営地
下壕のせうけり、
もろくまれた。

工事の爆風 危険な作業



本営は、松代大
行った。松代大
営は朝鮮人が削岩
機で穴を開け、ス
の穴にナイマイ
セを入れて爆発さ
工事は、1944年
秋から9月までの
45年夏ごろまで
続いたといえる。
ぶユンフリンの

トンネルが松代大
ホッセルが作業
で大変なことがあ
イナマイトを使っ
た作業。これは持
爆風の煙が毒を持
つていて、体がし
びれるほど危険な
ものだったといふ。
ダイナマイトの威
力は硬い岩盤を大
きく崩すほどで、破
壊の瞬間は一日二
回と決まっていた。
この一連の作業
は大変な危険なも
のだったといえる。
全体的に、これは考
えられている。

松代大本営の真実

松代大本営は一
九四四年、四五年
に作られて巨大な
地下ごうのことで
ある。全長約十き

の中で、象山地下
ごうのみ見学がで
きる。この地下ご
うが作られた理由
は、大本営、皇室

政府機関を置いた
ために作られた。
駐車料、見学料は
無料。駐車場から
は徒歩七分。ヘル
メットをかぶる必
要がある。

工事に動員された朝鮮人

地下壕を掘る
作業は
とても危険
地下壕を掘る作業
には削岩機が使わ
れていた。削岩機
はかたい岩に穴を
あけるための道具
である。ロッドは
削岩機の先に取り

つける部品である。
作業員が削岩機で
穴をあけ、その穴に
ダイナマイトをし
て発破をする。と
ても危険な作業で
七くなる人もいた。
今も抜けなくなっ
たロッドは地下壕
の中に数本残され
ている。

松代町に掘削さ
れた地下壕。その
工事に従事した人
達には約1万人。そ
のうち約7千人の
朝鮮人が工事の主
力だった。
青壮年の日本人
男性は、多くが兵
隊として中国大陸
などに動員されて
いた。そのため、
当時の日本の植民

地だった朝鮮人
連れてきた朝鮮人
や日本各地から集
められた朝鮮人が
動員されたのだ。
落盤事故や病気で
なつた人も多い。
壕の入り口にある
追悼碑は、亡くな
った朝鮮人を忘
れたいよう建てら
れた。